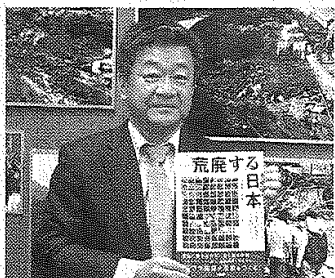


日本の整備水準、老朽化に警鐘

足立敏之参議院議員が呼びかけ人となつて、国土交通省OBとともにまとめた書籍、「荒廃する日本 これでもいいのか?」

ヤパン・インフラ」が、日経BPから発行された。著者はインフラ再生研究会、編者は日経コンストラクション。足立議員が呼びかけ人となつて書籍を発刊するのは、「激甚化する水害」に次いで第2弾。

かつて、老朽化やさまざまな点検・管理等により、大規模な橋の落橋



などが発生し、80年代の米国で社会問題となつた「荒廃するアメリカ」

荒廃する日本 これでいいのか ジャパン・インフラ

著者：インフラ再生研究会
編者：日経コンストラクション

は、日本のインフラの整備水準や老朽化に警鐘を鳴らし、今後のあるべき方向性を示している。

同書で取り上げたインフラは、道路、治水・利水、下水道、港湾、都市の5分野。これらが置かれている状況を国内外のデータに基づいて分析し、日本のインフラが二流、三流国に低迷している事実をつまびらかにしている。

こうした状況から脱却し、激甚化する災害への対応をはじめとする安全・安心の確保や、経済発展のための生産性向上に貢献するためにも、必要な予算を確保することは重要だ。同書では、1990年から2018年度までの公共事業予算(国

力)。このような状況を引き起こさなためにも、同書で「約8・0兆〜8・5兆円レベル」を目標とする必要性を指摘している。

足立議員「写真」は今回の発行に当たり、財務省の財政制度等審議会が「日本のインフラは概成しつつある」と言っているが、日本のインフラの整備水準は諸外国よりも低く、概成前に老朽化の問題も生じてきている」と問題視。同書を通して、現在の「日本のインフラの整備水準は、世界レベルでない。これを国民の皆様に認識してほしい」と述べ、災害対応や日本経済が一流であるためにも、日本のインフラが一流である必要性を訴えた。

書籍「荒廃する日本」(A4判、192ページ)は、価格2000円(税別)。